

Dell EMC License Manager バージョン 1.6 ユーザーズ ガイド

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

Dell EMC License Manager について

Dell EMC License Manager は、Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) ライセンスおよび Chassis Management Controller (CMC) ライセンスのための 1 対多のライセンス展開およびレポートツールです。

License Manager を使用して、次のライセンスのダウンロード、バインド、展開、およびバックアップを実行できます。

- Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft Windows Admin Center (OMIMSWAC) ライセンス
- Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow (OMISNOW) ライセンス
- iDRAC Secure Enterprise Key Manager (SEKM) ライセンス
- 工場出荷時にインストールされている iDRAC9、iDRAC8 または iDRAC7 を搭載したすべての PowerEdge サーバ (yx2x および yx3x と表記) 上の iDRAC ライセンス
 - ① **メモ:** サーバ名の形式 yxxx で、y はアルファベット (たとえば M (モジュラー)、R (ラック)、T (タワー) など)、x は数字を示します。たとえば、PowerEdge R720 は第 12 世代のラックマウント 700 シリーズサーバです。
- PowerEdge VRTX および PowerEdge FX または FX2s シャーシ上の CMC のライセンス
- OpenManage Enterprise Advanced のライセンス
- PowerEdge ストレージスレッドのライセンス

ライセンス可能システムでインベントリを実行し、現在有効な管理コントローラのライセンスステータスと機能をレポートすることもできます。

iDRAC ライセンスを使用して、Enterprise iDRAC 機能セットで現在使用できる仮想メディアおよびリモートコンソールのサポートなどのサーバ管理機能を有効化します。

CMC ライセンスを使用して、コンソール統合、リモートアクセス、マルチシャーシ管理、およびサーバクローニングなどのシャーシの管理機能を有効化します。

ライセンスは、dell.com/support/retail/lkm の Dell オンラインライセンスポータルからダウンロードできます。サーバまたはシャーシの購入時にライセンスを購入できます。

トピック :

- [変更履歴](#)
- [本リリースの新機能](#)

変更履歴

表 1. 文書の変更履歴

日付	文書のリビジョン	変更の説明
2020 年 10 月	A00	Dell EMC License Manager バージョン 1.6 のリリース
2021 年 6 月	A01	ライセンスのバインドと導入を最大 1,000 台のターゲット デバイスまでスケールアップするサポートの追加。

本リリースの新機能

- ライセンスのバインドと導入を最大 1,000 台のターゲット デバイスまでスケールアップするようサポート。
- 最新世代の PowerEdge サーバのサポート。
- iDRAC Secure Enterprise Key Manager (SEKM) ライセンスのサポート。
- iDRAC Datacenter ライセンスのサポート。
- OpenManage Enterprise Advanced ライセンスのサポート。
- Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft Windows Admin Center (OMIMSWAC) ライセンスのサポート。

- Dell EMC OpenManage Integration with ServiceNow (OMISNOW) ライセンスのサポート。

License Manager のインストール

トピック：

- システムの最小要件
- 制限
- License Manager のインストール

システムの最小要件

表 2. システムの最小要件

項目	要件
ハードディスクドライブ (HDD)	200 MB (最小)
RAM	2 GB (最小)
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Windows 10 • Windows Server 2016 • Windows Server 2019
ネットワーク	100 Mbps 以上
画面解像度	1024 x 768
Microsoft .NET	4.5
リモート管理	<p>Windows リモート管理 (WinRM) 2.0</p> <p>この機能は Windows 7、Windows Server 2008 R2、およびそれ以降のバージョンに含まれています。</p> <p>WinRM の前提条件は Microsoft Windows Update を使用して入手できます。</p>

制限

License Manager は最大 3500 台のライセンス可能なシステムと、クラス B までの IP アドレス範囲 (65,536 アドレス) のインベントリをサポートします。

License Manager のインストール

1. License Manager を dell.com/support からダウンロードします。
2. [License Manager] Windows インストーラパッケージをダブルクリックします。
3. インストール用の言語を選んで、[OK] をクリックします。
4. [ようこそ] 画面で、[次へ] をクリックします。
5. [ライセンス契約] で、[ライセンス契約の条件に同意します] を選択して [次へ] をクリックします。
6. [セットアップの種類] で、次のいずれかを実行します。
 - デフォルトのインストールパスを受け入れる場合は、[標準] を選択してから [次へ] をクリックします。
 - 特定のプログラム機能を有効化する、およびインストールパスを変更するには、**カスタム** を選択してから [次へ] をクリックします。[カスタムセットアップ] で必要な License Manager の機能を選択し、使用可能なドライブ領域を確認して、License Manager をインストールするための新しい場所を割り当てます。

7. [プログラムのインストール準備完了] 画面で [インストール] をクリックします。
[InstallShield ウィザード完了] ページが表示されます。
8. License Manager を起動するには、[Dell EMC License Manager を起動する] チェックボックスを選択してから [終了] をクリックします。

[インストール後の作業]

dell.com および最新の iDRAC ファームウェアに接続するには、最新バージョンの Transport Layer Security (TLS) を使用します。それには、次の変更をレジストリーに追加します。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\.NETFramework\v4.0.30319]
"SchUseStrongCrypto"=dword:00000001
"SystemDefaultTlsVersions"=dword:00000001
```

変更の詳細については、次のサイトを参照してください：<https://docs.microsoft.com/en-us/dotnet/framework/network-programming/tls>

はじめに : License Manager

License Manager には、Windows デスクトップから次のいずれかの方法でアクセスできます。

- Windows 8、Windows Server 2012 以降のオペレーティングシステム — [スタート] シンボルをクリックして、[License Manager] をクリックします。
- Windows 7、Windows Server 2008、またはそれより前のオペレーティングシステム — [スタート] → [すべてのプログラム] → [Dell OpenManage アプリケーション] → [License Manager] → [License Manager] の順にクリックします。
- License Manager アイコンをダブルクリックします。

メモ: License Manager を実行するにはローカルの管理者権限が必要です。

ライセンスの展開を開始するための情報が記載された [はじめに : Dell EMC License Manager] 画面が表示されます。

トピック :

- [License Manager GUI](#)
- [License Manager ビュー](#)
- [ライセンスについて](#)
- [データのフィルタリング](#)

License Manager GUI

License Manager には、メニューバー、タスクステータスバー、左ペイン、および作業ペインがあります。

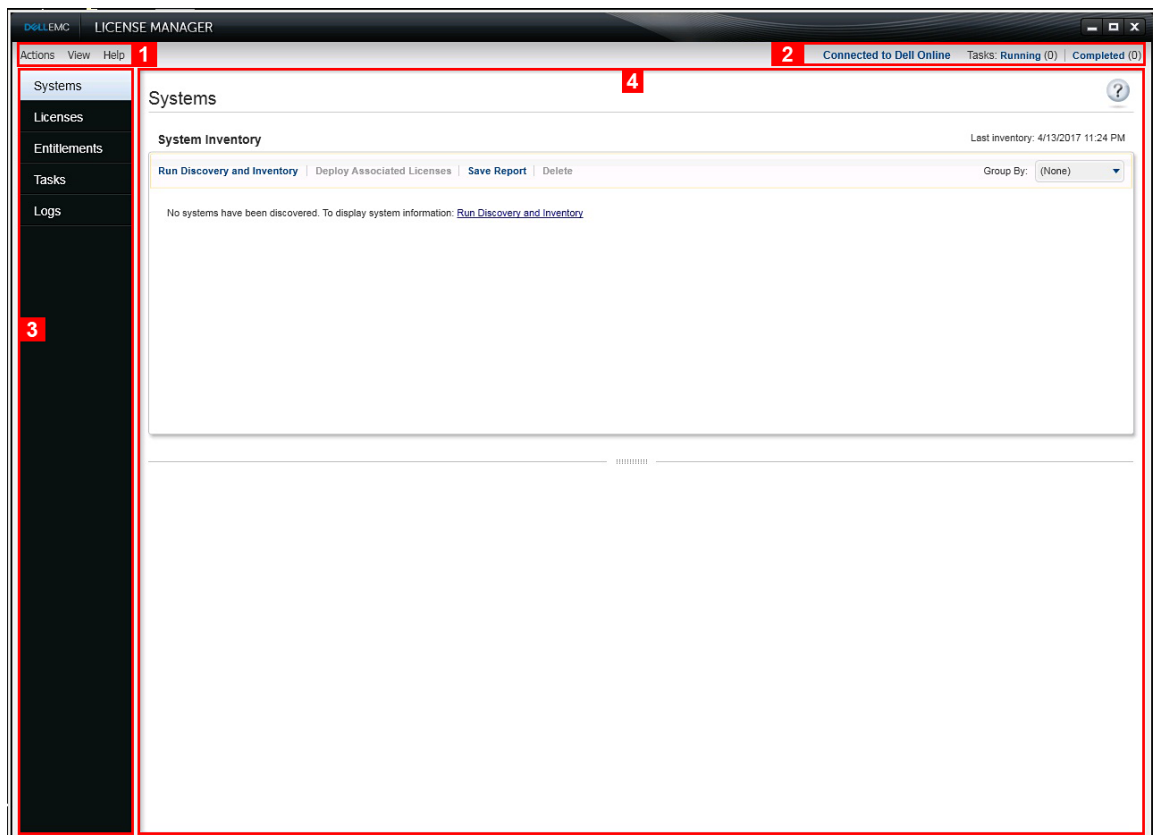


図 1. License Manager GUI

1. メニューバー


2. タスクステータスバー
3. 左側ペイン
4. 作業ペイン

メニューバー

メニューバーには、アクション、ビュー、およびヘルプメニューがあります。

アクションメニュー

アクションメニューは次で構成されています。

- [システムの検出とインベントリ] - 検出/インベントリウィザードを起動します。[ライセンス可能システムのインベントリを参照してください](#)。
- [サーバパスワードの変更] - サーバの固有パスワードを正規化するには、これを選択します。[iDRAC の固有のパスワードの変更](#)、p. 13] を参照してください。
- [Dell オンラインライセンスポータル(の起動)] - Dell オンラインライセンスポータル (dell.com/support/retail/lkm) にアクセスするには、これを選択します。ポータルにアクセスする前に、システムがインターネットに接続されていることを確認します。オンラインポータルからライセンスをダウンロードできます。
- [ライセンスのインポート] - [インポートウィザード] を起動します。[Dell オンラインライセンスポータルからのアーカイブ済みライセンスのインポート](#)、p. 19] を参照してください。
- [ライセンスの自動展開] - インベントリ内にあるシステムにバインドされた未展開ライセンスのすべてを展開対象として選択してから、ライセンス管理ウィザードを開きます。[ライセンスの展開](#)を参照してください。
- [Dell オンラインへの接続] - Dell オンラインポータルに接続して、購入したデバイスの利用可能なすべてのライセンスの情報を収集するには、これを選択します。[Dell オンラインアカウントへの接続によるライセンスの取得](#)、p. 17] を参照してください。
- [Dell オンラインからの切断] - Dell オンラインポータルから切断するには、これを選択します。[Dell オンラインからの切断](#)、p. 19] を参照してください。
- [別の Dell アカウントにログイン] - 別の Dell オンラインアカウントにログインするには、これを選択します。[その他の Dell オンラインアカウントにログインする](#)、p. 18] を参照してください。
- [ライセンスのバインド] - これを選択すると未バインドのすべてのライセンスを関連するデバイスにバインドし、その後で展開できます。[ライセンスのバインド](#)、p. 20] を参照してください。
- [ライセンスアーカイブのエクスポート] - インベントリ内の全ライセンスを含むアーカイブコピーを圧縮ファイルのフォーマットで保存します。[ライセンスの管理](#)を参照してください。
- [レポートの保存] - システム、ライセンス、またはログの各ビューから、CSV、HTML、XML の情報レポートを保存できます。詳細については、それぞれのビューの項を参照してください。
- [ログのクリア] - アクティビティログからすべてのエントリを削除します。
 **メモ:** このオプションでは、タスクビューからのタスクに関する情報は削除されません。[タスクとログの管理](#)を参照してください。
- [終了] — License Manager アプリケーションを終了します。このオプションにより現在のすべてのタスクが終了します。

ビューメニュー

ビューメニューは次で構成されています。

- [システム] - システムビューに移動します。
- [ライセンス] - ライセンスビューに移動します。
- [利用資格] — 利用資格ビューに移動します。
- [タスク] - タスクビューに移動します。
- [ログ] - ログビューに移動します。
- [はじめに] — はじめに : Dell EMC License Manager 画面を表示します。

ヘルプメニュー

ヘルプメニューには次が含まれます。


- [License Manager のヘルプ] — 各ビューのヘルプアイコンをクリックして、License Manager のヘルプにアクセスします。

- [オンラインサポート] - dell.com/support の Dell テクニカルサポートにアクセスします。
- [サポートログアーカイブの生成] - Dell テクニカルサポートが問題のトラブルシューティングに使用できる、アクティビティログのアーカイブを生成します。
- [バージョン情報] — License Manager のバージョン情報と著作権情報を表示します。

タスクステータスバー

タスクステータスバーに、License Manager が Dell オンラインアカウントに接続したときのステータス、実行回数、および完了したタスク数が表示されます。タスクステータスバーをクリックすると、タスクビューがアクティブになります。

ヘルプアイコン

 をクリックして、状況に応じたオンラインヘルプにアクセスします。

License Manager ビュー

License Manager は次の主要ビューをサポートしています。

- システムビュー
- ライセンスビュー
- 利用資格ビュー
- タスクビュー
- ログビュー

システムビュー

システムビューは、ナビゲーションペインの [システム] リンクからアクセスできます。システムビューからは、次の操作が可能です。

- ライセンス可能なシステムの検出およびインベントリ
- ライセンスの展開
- システムライセンス状態の表示
- システムからのライセンスの削除

システムビューの詳細については、「[ライセンス可能システムでの作業](#)」を参照してください。

ライセンスビュー

ライセンスビューは、ナビゲーションペインの [ライセンス] リンクからアクセスできます。ライセンスビューからは、次の操作が可能です。

- ダウンロードしたライセンスの License Manager へのインポート
- 使用可能なライセンスについての情報の表示
- ライセンスの展開
- アーカイブされたライセンスのエクスポート

ライセンスビューの詳細については、「[ライセンスの管理](#)」を参照してください。

利用資格ビュー

利用資格ビューは、ナビゲーションペインの [利用資格] リンクからアクセスできます。利用資格ビューを使用して、次の操作が可能です。

- 使用可能な利用資格についての情報の表示
- バインドされたライセンスのダウンロード
- 利用資格レポートの保存

タスクビュー

タスクビューは、ナビゲーションペインの [タスク] リンクからアクセスできます。タスクビューからは、次の操作が可能です。

- アーカイブされたタスク結果の表示
- レポートの保存
- サポートログアーカイブの生成

タスクビューの詳細については、「[タスクとログの管理](#)」を参照してください。

ログビュー

ログビューは、ナビゲーションペインの [ログ] リンクからアクセスできます。ログビューからは、次の操作が可能です。

- アーカイブされたタスク結果の表示
- レポートの保存
- サポートログアーカイブの生成

ログビューの詳細については、「[タスクとログの管理](#)」を参照してください。

ビューの使い方

システム、ライセンス、タスク、およびログデータビューのグリッドでは、並べ替え、グループ化、およびフィルタリングが可能です。また、データグリッドに表示する列を選択することもできます。

- 並べ替え - 列に基づいてデータを並べ替えるには、列のタイトルをクリックします。
- グループ化 - アイテムをグループ化するには、グリッドヘッダのグループ分けメニューから、グループ化する列を選択します。
- フィルタリング - データ列をフィルタするには、フィルタする行を選択し、フィルタアイコンをクリックします。フィルタ操作を選択してから、フィルタ文字列を入力します。フィルタをクリアするには、フィルタアイコンを選択して [フィルタのクリア] をクリックします。
- 列の選択 - 表示する必要がある列を指定するには、[列の表示 / 非表示] をクリックします。

ライセンスについて

デルライセンスには次のプロパティが含まれます。

- 資格識別子 — 各ライセンスには、そのライセンスを固有に識別する資格 ID が含まれています。
- ライセンスの説明 — ライセンスで有効にされている機能のレベルを指定します。詳細に関しては、『[ライセンスの説明](#)』を参照してください。

ライセンスの説明

ライセンスの説明では、ライセンスで有効にされている機能のレベルを示します。各機能レベルでサポートされる iDRAC 機能の詳細については、dell.com/support/retail/lkm のオンラインライセンスポータルにアクセスしてください。次のライセンスが利用可能です。


- 永久ライセンス
- 評価用ライセンス
- バインドされたライセンス
- アップグレードライセンス

永久ライセンス

iDRAC 機能を有効する標準ライセンスには、有効期限がありません。

評価用ライセンス

評価用ライセンスは特定の iDRAC 機能を 30 日間試用でき、30 日の延長も可能です。

 **メモ:** 評価用ライセンスを License Manager で展開またはアーカイブすることはできません。

バインドされたライセンス

デル永久ライセンスは特定のシステムのサービスタグにバインドされており、ライセンスはそれらのシステムにしか展開できません。

アップグレードライセンス



アップグレードライセンスには、アップグレードされたライセンスの資格 ID を参照するアップグレード ID が含まれます。

ライセンス機能

各ライセンスには、ライセンスによって有効化される特定の iDRAC 機能セットが含まれています。ライセンスの説明には、そのライセンスに含まれる機能レベルの概要が示されます。

データのフィルタリング

[システム]、[ライセンス]、[利用資格]、[タスク]、および [ログ] ビューでデータをフィルタするには、次の手順を実行します。

1.  をクリックします。
2. ドロップダウンからフィルタオプションを選択した後、フィールドに英数文字を入力し、[aA] ボタンをクリックして、検索が大文字小文字を区別しないようにします。
3. フィルタロジックを設定した後、[フィルタ] をクリックしてロジックを実行します。
 **メモ:** 既存のフィルタを削除するには、[フィルタのクリア] をクリックします。

フィルタオプション

表 3. フィルタオプション

フィルタオプション	説明
[と同じ]	同じロジックを作成します
[と異なる]	異なるロジックを作成します
[で開始]	テキスト群の最初の英数字に基づいたフィルタ検索を行います。フィールドに開始英数文字を入力します。
[で終わる]	テキスト群の最後の英数字に基づいたフィルタ検索を行います。フィールドに終了英数文字を入力します。
[を含む]	テキスト群に現在含まれている英数文字に基づいたフィルタ検索を行います。フィールドに英数文字を入力します。
[を含まない]	テキスト文字列に存在する英数字に基づいた検索に、存在しないロジックを含めます。
[に含まれる]	英数文字列に存在するロジックを含めます
[に含まれない]	英数文字列に存在しないロジックを含めます
[は空白である]	空白ロジックを含めます
[は空白ではない]	入力済みロジックを含めます
[より小記号 (<)]	より小ロジックを作成します
[より小か等しい記号 (<=)]	以下ロジックを作成します
[より大記号 (>)]	より大ロジックを作成します

表 3. フィルタオプション (続き)

フィルタオプション	説明
[より大か等しい記号 (<=)]	以上ロジックを作成します
[は Null]	無効ロジックを含めます
[は Null ではない]	無効ではないロジックを含めます

iDRAC の固有のパスワードの変更

License Manager は、固有のユーザー iDRAC パスワードをユーザー指定のパスワードに安全に変更する機能をサポートしています。

① メモ: この機能は、iDRAC 9 以降のバージョンでのみサポートされます。

固有のルートアカウントのパスワードを変更するには、次の手順を実行します。

1. [アクション] > [サーバパスワードの変更] をクリックします。
[サーバパスワードの変更] ウィンドウが表示されます。
2. [デバイスの追加] を行うには、次のいずれかを実行します。
 - サービスタグおよび固有のパスワードを入力して、資格情報を手動で変更し、[追加] をクリックします。
 - CSV テンプレートを生成して詳細をインポートする：
 - ① メモ:** この機能を使用するには、サービスタグおよび固有のパスワード情報を .csv ファイルに入力します。
 - ① メモ:** License Manager にアップロードされる .csv ファイルは、非暗号されている必要があります。
 - a. [システム詳細] の下の [CSV テンプレートの生成] をクリックし、[保存] をクリックして .csv ファイルを目的の場所に保存します。
 - b. [レポートが正常に保存されました] ウィンドウで、[OK] をクリックします。
 - c. エクスポートされた .csv ファイルに、サービスタグと固有のパスワード情報を手動で入力し、[インポート] をクリックします。
 - d. [開く] ダイアログボックスでファイルシステムを参照し、.csv ファイルを選択して [開く] をクリックします。
 - ① メモ:** インポートした固有のパスワードはユーザーに対して非表示になります。
 - ① メモ:** .csv ファイルに含まれるサービスタグおよび固有のパスワード情報は、License Manager には保存されません。
 - ① メモ:** License Manager にアップロードした後、ユーザーは .csv ファイルを削除する必要があります。
 - Dell EMC OpenManage Mobile (OMM) アプリケーションから詳細をインポートするには、次の手順を実行します。
 - a. [OMM を使用してインポート] をクリックします。
 - b. [開く] ダイアログボックスでファイルシステムを参照し、.ompi または .xml ファイルを選択して [開く] をクリックします。
 - c. [パスワードインベントリのインポート] ダイアログボックスで復号化パスワードを入力し、[解析] をクリックします。
 - ① メモ:** License Manager にインポートする前に、.ompi または .xml ファイルが変更されていないことを確認します。

サービスタグおよび固有のパスワードが、[システム詳細] の下に表示されます。

3. デバイスを削除するには、対応する サービスタグ を選択し、[削除] をクリックします。
4. [システム詳細の削除] ウィンドウで、[はい] をクリックします。
選択したデバイスはインポートされたリストから削除され、そのデバイスの固有のパスワードは変更されないままになります。
5. [次へ] をクリックします。
6. [IP アドレス / 範囲を指定] ウィンドウで、次のいずれかを実行します。
 - IPv4 レンジを使用するには、開始アドレス、終了アドレス、およびサブネットマスクを入力します。
 - 個々の IP アドレスを使用するには、[個々のアドレス (IPv4)] を選択し、IP アドレスを入力します。
 - テキストファイルを使用するには、[IP アドレスを含むテキストファイル] を選択し、[ロード] をクリックし、参照してテキストファイルを選択します。
 - ① メモ:** IP アドレスまたはホスト名が含まれたテキストファイルを選択する必要があります。
7. [次へ] をクリックします。
8. [新しいパスワードを入力] ウィンドウで、新しいパスワードを入力し、ルートユーザーの新しいパスワードを確定します。
 - ① メモ:** 新しいパスワードは、License Manager に保存されません。
9. 新しいパスワードが一致しない場合は、ミスマッチを通知するメッセージが表示されます。正しいパスワードをもう一度入力し、[OK] をクリックします。

新しいパスワードを入力し、新しいパスワードを確定して再試行します。

10. [次へ] をクリックします。

[概要] ウィンドウでは、サービスタグリスト および IP レンジ / アドレス が表示されます。

11. [実行] をクリックして、IP レンジ / アドレス で選択されたデバイスの固有の iDRAC パスワードを新しいパスワードに変更します。

パスワード変更の進行状況は、[タスク] ビューに表示されます。[結果] の表に、処理のステータスとタスクの結果が表示されます。[実行ログ] の表には、詳細な情報が示されます。デバイスでパスワード変更機能が失敗する場合は、[結果] および [実行ログ] のエントリを参照すると、不具合を特定できます。

固有のパスワードが変更されると、新しいパスワードを使用してデバイスにログインできます。

ライセンス可能システムでの作業

License Manager を使用して、システムの検出とインベントリ、ライセンスの展開、およびレポートの保存を行うことができます。システム ビューには、インベントリ済みシステムの概要が表示され、非評価ライセンスがインベントリ中にアーカイブ目的で取得されます。

トピック：

- ライセンス可能システムのインベントリ
- インベントリ範囲の編集
- インベントリ済みシステムの表示
- システム情報の削除
- レポートの保存

ライセンス可能システムのインベントリ

ライセンス可能システムの検出およびインベントリを実行すると、これらのシステムのライセンスステータスを表示することができます。システムでのライセンスの展開は、システムのインベントリを実行してから行ってください。インベントリプロセスは、インストールされている評価用ライセンス以外のライセンスを、アーカイブ用に自動で取得します。

システムのインベントリを実行するには、次の手順を実行します。

1. [システム] をクリックします。
2. [システム] で [検出およびインベントリの実行] をクリックします。
3. [検出/インベントリウィザード] の [IPアドレスの選択] ページで、[範囲またはIPの追加] をクリックします。
4. [インベントリ範囲の編集] ウィンドウで IP 範囲またはアドレスの名前を入力してから、次の操作のいずれかを実行します。
 - システムのインベントリに IPv4 範囲を使用するには、開始アドレス、終了アドレス、およびサブネットマスクを入力します。
 - システムのインベントリに個々の IP アドレスを使用するには、[個々のアドレス (IPv4、IPv6、またはホスト名)] チェックボックスを選択してから、IP アドレスまたはホスト名を入力します。
 - システムのインベントリにテキストファイルを使用するには、[IP アドレス記載のテキストファイル] チェックボックスを選択して、[ロード] をクリックします。
 - ファイルシステムをブラウズし、テキストファイルを選択します。

メモ: 各行に IP アドレスまたはホスト名が含まれたテキストファイルを選択する必要があります。

メモ: PowerEdge ストレージスレッドのインベントリを実行するには、シャーシの IP アドレスのみを入力します。シャーシのインベントリ実行中に、License Manager が自動的に PowerEdge ストレージスレッドのインベントリを実行します。

メモ: PowerEdge ストレージスレッドについては、License Manager は現在のライセンスとしてホスト CMC のライセンスレベルを表示します。

5. [OK] をクリックします。
入力した IP アドレスまたは範囲が [IP アドレスと範囲] 表に追加されます。

テキストファイルを選択した場合は、そのテキストファイル内の IP アドレスとホスト名が検証され、無効な IP アドレスまたはホスト名が [検証レポート] に表示されます。

メモ:

- テキストファイルから IP アドレスが追加された後、これらは個々の IP アドレスとして表示されます。
- テキストファイル内に重複した IP アドレスがある、または IP アドレスが [IP アドレスと範囲] 表にすでに存在している場合、それらのアドレスは無視されます。
- テキストファイルを License Manager を使用して編集することはできません。

6. [検出/インベントリウィザード] の [IPアドレスの選択] ページで、[次へ] をクリックします。

7. [検出 / インベントリウィザード] の [IP スキャン設定] でユーザー資格情報を入力し、インターネット制御通知プロトコル (ICMP) と WS-Man オプションを設定してから **次へ** をクリックします。

メモ: 証明書設定の情報については、[通信設定] を参照してください。

8. [検出 / インベントリウィザード] の [設定の確認] ページで次の操作を行います。

- 入力した検出設定を確認します。設定を編集するには、[戻る] をクリックします。
- タスクペインでインベントリタスクの進行状況を表示しない場合は、[起動後にタスクペインを表示する] チェックボックスをオフにします。

9. [検出 / インベントリの実行] をクリックします。

[タスク] ビューが表示されます。[システム] に移動してインベントリされたシステムを確認できます。

メモ: ステップ 8 で [起動後にタスクペインを表示する] チェックボックスをクリアした場合は、[システム] ビューが表示されます。

インベントリ範囲の編集

適切な検出またはインベントリの表で、管理コントローラ IP アドレスを指定します。License Manager では、それ自体がインストールされているオペレーティングシステムまたはハイパーバイザーからライセンス情報をインベントリすることはできません。

範囲を編集するには、次の手順を実行します。

メモ: License Manager から範囲を削除するには、表のエントリを選択して [選択項目の削除] をクリックします。

1. [検出およびインベントリの実行] をクリックします。
2. 表のエントリを選択して [編集] をクリックします。
[インベントリ範囲の編集] ウィンドウが表示されます。
3. 必要に応じて、IP 範囲またはアドレス名、IPv4 範囲、あるいは個々のアドレス (IPv4、IPv6、またはホスト名) を編集します。
4. [OK] をクリックします。

インベントリ済みシステムの表示

インベントリ済みシステムを表示するには、[システム] を選択します。インベントリ済みシステムが [システム] ビューに表示されます。システムインベントリの表にはインベントリ済みシステムの概要が示され、システム詳細 ペインには選択したシステムの詳細情報が示されます。

メモ: PowerEdge ストレージスレッドについては、License Manager は現在のライセンスとしてホスト CMC のライセンスレベルを表示します。

システム情報の削除

1. [システム] で削除するシステムを選択し、[削除] をクリックします。
2. プロンプトが表示されたら、[はい] をクリックして確定します。

レポートの保存

システム情報は、CSV、XML、または HTML 形式のレポートとして保存することができます。

1. [システム] から、[レポートの保存] をクリックします。
2. フォルダの場所とファイル名を指定します。
3. [保存ファイルの種類] でレポート形式を選択して [保存] をクリックします。
4. [OK] をクリックします。

ライセンスの管理

License Manager を使用して、ライセンス可能なシステムにライセンスを展開できます。License Manager は、バックアップ用のライセンスアーカイブのエクスポートもサポートしています。使用可能なライセンスのステータスはライセンスビューから表示できます。ライセンスの利用資格の詳細は利用資格ビューで確認できます。ライセンスの利用資格の詳細は、Dell オンラインアカウントに接続して取得します。

① | メモ: 工場出荷時にインストールされたライセンスは、iDRAC 9 システムの検出中およびインベントリ中には取得されません。したがって、iDRAC 9 のライセンスは [ライセンス] ビューのリストには表示されません。

ライセンスを展開する前に、次を行います。

1. ライセンス可能システムのインベントリを行います。 [ライセンス可能システムのインベントリ](#) を参照してください。
2. 次のいずれかを実行して、ライセンスを取得およびインポートします。
 - Dell オンラインに接続して、Dell オンラインアカウントから未バインドのライセンスを自動的にインポート。
 - Dell オンラインライセンスポータルからのライセンスアーカイブのダウンロードおよび License Manager へのライセンスのインポート。
3. ライセンスをバインドします。
4. ライセンスを展開します。

① | メモ: ライセンスでの作業を行うには、License Manager で [ライセンス] をクリックします。

トピック：

- [Dell オンラインアカウントへの接続によるライセンスの取得](#)
- [その他の Dell オンラインアカウントにログインする](#)
- [Dell オンラインからの切断](#)
- [Dell オンラインライセンスポータルからのアーカイブ済みライセンスのインポート](#)
- [ライセンスのバインド](#)
- [ライセンスの展開](#)
- [展開するライセンスの選択](#)
- [ライセンス展開先システムの選択](#)
- [ライセンスアーカイブのエクスポート](#)
- [レポートの保存](#)
- [インベントリからのライセンスの削除](#)
- [システムからのライセンスの削除](#)
- [バインドされたライセンスのダウンロード](#)

Dell オンラインアカウントへの接続によるライセンスの取得

License Manager は、Dell オンラインに接続して、バインド済み / 未バインド双方の使用可能なすべてのライセンスの情報を収集できます。License Manager が Dell オンラインに接続するには、ワンタイムパスコード (OTP) が必要です。Dell オンラインからはいつでも切断できます。

① | メモ: Dell オンラインに接続する前に、Dell アカウントを持っていることを確認します。

License Manager から Dell オンライン に接続するには、次の手順を実行します。

1. License Manager で、[アクション] > [Dell オンラインへの接続] の順にクリックします。

① | メモ: License Manager から Dell オンラインに接続するには、ワンタイムパスコード (OTP) が必要です。
2. [Dell オンラインへの接続] ウィンドウで、[Dell オンライン] リンクをクリックして OTP を要求します。
3. [Dell オンライン] ポータルで、資格情報を入力し、[サインイン] をクリックします。

OTP が生成されて表示されます。

4. Dell オンラインポータルから生成された OTP をコピーします。

①メモ: OTP は 30 分間有効です。OTP を 30 分以内に使用しなかった場合は、Dell オンラインに接続して再び要求する必要があります。

5. License Manager の [Dell オンラインへの接続] ウィンドウで、Dell オンラインポータルからコピーされた OTP を入力します。
 - a. [接続資格情報の保存] チェックボックスを選択し、Dell オンラインに再接続するための接続資格情報を保存します。[接続資格情報の保存] オプションが選択されていない場合、またはログインアカウントが変更された場合、保存されている資格情報は無効になります。Dell オンラインに接続して、新しい OTP を要求する必要があります。
 - b. [起動時に自動接続] チェックボックスを選択して、License Manager の起動時に License Manager を自動的に Dell オンラインアカウントに再接続します。
 - c. ネットワークで接続するためにプロキシ設定が必要な場合、[プロキシ設定の有効化] チェックボックスを選択してプロキシ設定を入力します。

①メモ: プロキシ設定は、ユーザー資格情報とともに保存されることはないため、求められたら入力する必要があります。

6. [次へ] をクリックします。

7. [接続結果] ウィンドウでは、Dell オンラインへの接続が成功したかどうかを確認できます。接続に成功した場合、[次へ] をクリックします。

8. 無効な OTP または不適切なプロキシ設定のため License Manager が Dell オンラインに接続できない場合、[閉じる] をクリックします。

Dell オンラインに再接続するには、新しい OTP を取得するか、正しいプロキシ設定が入力されていることを確認します。ライセンス情報のダウンロードが完了した後、未バインドの購入済みライセンスの概要が表示されます。

9. [閉じる] をクリックします。

[タスクステータス] ウィンドウが表示されます。

ダウンロードした利用資格のサマリは、[利用資格] ナビゲーションペインで表示できます。検出され、インベントリが実行されたデバイスにライセンスをバインドするには、[ライセンスのバインド](#)、p. 20 を参照してください。

①メモ: Dell オンラインから切断するには、[Dell オンラインからの切断](#)、p. 19 を参照してください。

その他の Dell オンラインアカウントにログインする

License Manager では、別のアカウントを使用して Dell オンラインに接続する機能をサポートしています。システムは、単一のアカウントではなく、複数のアカウントを使用して検出できます。別のアカウントにログインすることにより、アカウントに固有のライセンスをダウンロードし、検出されたシステムにバインドすることができます。別のアカウントにログインすると、現在のアカウントの利用資格は表示されません。

別の Dell オンラインアカウントにログインするには、次の手順を実行します。

1. License Manager で、[アクション] > [別の Dell アカウントにログイン] の順にクリックします。

①メモ: 別の Dell オンラインアカウントを使用してログインすると、現在の Dell オンラインアカウントから切断されます。

2. [Dell オンラインからの切断] ウィンドウで、[はい] をクリックします。

3. [Dell オンラインへの接続] ウィンドウで、[Dell オンライン] リンクをクリックして OTP を要求します。

4. [Dell オンライン] ポータルで、資格情報を入力し、[サインイン] をクリックします。

OTP が生成されて表示されます。

5. Dell オンラインポータルから生成された OTP をコピーします。

①メモ: OTP は 30 分間有効です。OTP を 30 分以内に使用しなかった場合は、Dell EMC オンラインに接続して再び要求する必要があります。

6. [Dell オンラインへの接続] ウィンドウで、Dell オンラインポータルからコピーされた OTP を入力します。

a. [接続資格情報の保存] オプションを選択し、Dell オンラインに再接続するための接続資格情報を保存します。接続資格情報の保存オプションが選択されていない場合、またはログインアカウントが変更された場合、保存されている資格情報は無効になります。Dell オンラインに接続して、新しい OTP を要求する必要があります。

b. [起動時に自動接続] オプションを選択して、License Manager の起動時に License Manager を自動的に Dell オンラインアカウントに再接続します。

c. ネットワークで接続するためにプロキシ設定が必要な場合、[プロキシ設定の有効化] オプションを選択してプロキシ設定を入力します。

①メモ: プロキシ設定は、ユーザー資格情報とともに保存されることはないため、求められたら入力する必要があります。

7. [次へ] をクリックします。

8. [接続結果] ウィンドウでは、Dell オンラインへの接続が成功したかどうかを確認できます。接続に成功した場合、[次へ] をクリックします。
9. 無効な OTP または不適切なプロキシ設定のため License Manager が Dell オンラインに接続できない場合、[閉じる] をクリックします。
Dell オンラインに再接続するには、新しい OTP を取得するか、正しいプロキシ設定が入力されていることを確認します。ライセンス情報のダウンロードが完了した後、未バインドの購入済みライセンスの概要が表示されます。
10. [閉じる] をクリックします。
[タスクステータス] ウィンドウが表示されます。

ダウンロードした利用資格のサマリは、[利用資格] ナビゲーションペインで表示できます。検出され、インベントリが実行されたデバイスにライセンスをバインドするには、[ライセンスのバインド](#)、p. 20 を参照してください。

i **メモ:** Dell オンラインから切断するには、[Dell オンラインからの切断](#)、p. 19 を参照してください。

Dell オンラインからの切断

Dell オンラインから切断した後、アーカイブされたライセンスファイルを Dell オンラインライセンスポータルからインポートする必要があります。[[Dell オンラインライセンスポータルからのアーカイブ済みライセンスのインポート](#)、p. 19] を参照してください。

Dell オンラインから切断するには、次の手順を実行します。

1. License Manager で、[アクション] [Dell オンラインからの切断] の順にクリックします。
i **メモ:** License Manager アプリケーションでライセンスのバインドのタスクがアクティブな場合、Dell オンラインから切断するオプション、および別の Dell オンラインアカウントを使用したログインするオプションは無効になります。
2. [Dell オンラインからの切断] ウィンドウで、[はい] をクリックします。
i **メモ:** Dell オンラインアカウントに再接続するには、新しい OTP を要求する必要があります。
i **メモ:** 別の Dell オンラインアカウントを使用してログインすると、現在の Dell オンラインアカウントから切断され、現在のアカウントの利用資格は、[利用資格] ナビゲーションペインに表示されません。

Dell オンラインライセンスポータルからのアーカイブ済みライセンスのインポート

ライセンスは、dell.com/support/retail/lkm の Dell オンラインライセンスポータルからダウンロードできます。サーバまたはシャーシの購入時にライセンスを購入できます。ライセンスは工場からインストールされます。ダウンロードしたライセンスパッケージには、圧縮ファイル形式 (.zip 形式) でライセンスアーカイブが含まれています。ライセンスアーカイブには、.xml 形式のライセンスファイルが含まれています。アーカイブ済みライセンスはインポートできます。ただし、期限切れのライセンスまたは評価版ライセンスはインポートできません。

1. License Manager で、[アクション] > [Dell オンラインライセンスポータルの起動] の順にクリックします。[]
2. Dell ライセンスポータルから、必要なライセンスをファイルシステムにダウンロードします。
3. [ライセンス] から、[ライセンスのインポート] を選択します。
4. [ライセンスの選択] で、ライセンスファイルをダウンロードした場所を参照し、ライセンスパッケージを選択して [開く] をクリックします。
i **メモ:** システムに同じ権利 ID のライセンスがある場合、重複しているライセンスにはライセンス供与についての潜在的な不具合があることを示すフラグが付けられます。
5. [ライセンスのインポート] で次の手順を実行します。
 - a. 一致するインベントリ済みシステムに基づいて検証済みライセンスのリストをフィルタする場合は、[インベントリされたシステムと一致するライセンスのみをインポートする] チェックボックスを選択します。
 - b. 有効なライセンスを選択します。
 - c. [インポート] をクリックします。

ライセンスのバインド

License Manager を使用して、すべての未バインドライセンスをインベントリ済みシステムにバインドすることができます。ライセンスをバインドする前に、次の手順を実行します。

- ライセンス可能なシステムの検出およびインベントリを行います。
 - 次のいずれかを実行して、ライセンスを取得およびインポートします。
 - Dell オンラインに接続して、Dell オンラインアカウントから未バインドのライセンスを自動的にインポート。
 - Dell オンラインライセンスポータルからのライセンスアーカイブのダウンロードおよび License Manager へのライセンスのインポート。
1. License Manager で、[アクション] > [ライセンスのバインド] の順にクリックします。
[ライセンスのバインド] ウィンドウが表示されます。
 2. ライセンスタイプを選択して [次へ] をクリックします。
License Manager では、選択した種類の未バインドライセンスをそれぞれのシステムにバインドします。単一のシステムを選択すると、ライセンスをバインドできます。
 3. ライセンスタイプにバインドするシステム名を選択します。
システムのサービスタグとモデルが表示されます。
 4. ライセンスがシステムにバインドされた後にライセンスを展開するには、[バインド後にライセンスを展開] チェックボックスを選択してから、[次へ] をクリックします。
i **メモ:** [バインド後にライセンスを展開] オプションを選択しない場合、ライセンスはシステムにバインドされますが、展開はされません。これらのライセンスは、後で必要に応じて展開できます。
 5. [バインド後にライセンスを展開] オプションを選択した場合は、管理コントローラの資格情報ウィンドウが表示されます。管理コントローラの資格情報を入力し、WS-Man プロトコルの通信設定を確定します。[次へ] をクリックします。
 6. 選択したライセンスの種類に対応したバインディングの割り当ての要約が表示されます。[レポートの保存] をクリックして、.csv、.html または .xml ファイルとしてバインドレポートを保存し、その後 [完了] をクリックして、選択したライセンスの種類のパインドおよび展開を完了します。

ライセンスの展開

License Manager は、使用可能なすべてのライセンスを検出されたシステムに自動的に展開することができます。または、展開用として特定のライセンスやシステムを選択することもできます。ライセンスを展開する前に、次を行います。

- ライセンス展開先システムのインベントリ。
 - 次のことを確認します。
 - インベントリされているシステムがライセンス可能であること
 - Dell オンラインライセンスポータルからライセンスがダウンロード済みであること
 - 必要なライセンスが License Manager にインポートされていること
- i** **メモ:** 複数のシステムに同じ権利 ID のライセンスがある場合、重複しているライセンスにはライセンス供与についての潜在的な不具合があることを示すフラグが付けられます。

ライセンスを自動展開するには、次の手順を実行します。

1. [ライセンス] > [ライセンスの展開] > [ライセンスの自動展開] の順に選択します。
2. [操作選択] ページで、[次へ] をクリックします。
3. [通信設定] で管理コントローラの資格情報を入力し、通信設定を確認してから [次へ] をクリックします。
4. ライセンスに適合するシステムが検出されない場合は、[使用できる適合ライセンス / システムはありません] というメッセージが表示されます。
i **メモ:** 展開はタスクビューで監視することができます。システムがアップデートされるたびに、システムビューとライセンスビュー内の対応する情報もアップデートされます。

展開するライセンスの選択

1. [ライセンス] > [ライセンスの展開] > [選択されたライセンスの展開] をクリックします。
2. [操作選択] ページで、展開するライセンスを検証して [次へ] をクリックします。
3. [通信設定] で管理コントローラの資格情報を入力し、通信設定を検証してから、[次へ] をクリックします。

① **メモ:** 展開はタスクビューで監視することができます。システムがアップデートされるたびに、システムビューとライセンスビュー内の対応する情報もアップデートされます。

ライセンス展開先システムの選択

1. [システム] で、ライセンスの展開先となるシステムを選択します。
2. [関連付けられたライセンスの展開] をクリックします。
3. システムで展開するライセンスを選択し、[次へ] をクリックします。
4. 通信設定で管理コントローラの資格情報を入力し、通信設定を確認してから、[次へ] をクリックします。

① **メモ:** 展開はタスクビューで監視することができます。システムがアップデートされるたびに、システムビューとライセンスビュー内の対応する情報もアップデートされます。

ライセンスアーカイブのエクスポート

システム内で利用可能なすべてのライセンスのアーカイブをエクスポートできます。システムの修復時、およびライセンスポータルにアクセスできない場合は（セキュリティ制限されたネットワークのため）、アーカイブされたデータをバックアップとして使用します。また、アーカイブされたライセンスを License Manager のインストール環境間の転送のために使用します。License Manager は、システムの検出中およびインベントリ中に工場出荷時にインストールされたライセンスを取得します。ライセンスをアーカイブすると、Dell オンラインライセンスポータルからダウンロードしたライセンスパッケージに似た、.xml ライセンスファイルの圧縮ファイルを含むパッケージが作成されます。

① **メモ:** 工場出荷時にインストールされたライセンスは、iDRAC 9 システムの検出中およびインベントリ中には取得されません。

1. [ライセンス] からライセンスを選択し、[アーカイブのエクスポート] をクリックします。
2. アーカイブしたファイルを保存するフォルダの場所を指定し、[保存] をクリックします。
ライセンスが圧縮ファイル形式（.zip 形式）でアーカイブされます。

レポートの保存

システム情報は、CSV、XML、または HTML 形式のレポートとして保存することができます。

1. [システム] から、[レポートの保存] をクリックします。
2. フォルダの場所とファイル名を指定します。
3. [保存ファイルの種類] でレポート形式を選択して [保存] をクリックします。
4. [OK] をクリックします。

インベントリからのライセンスの削除

License Manager のインベントリからライセンスを削除するには、次の手順を実行します。


1. [ライセンス] から削除するライセンスを選択して [削除] をクリックします。
2. [ライセンス削除の確認] で、[はい] をクリックします。

システムからのライセンスの削除

[ライセンスの削除] オプションでは、システムから特定のライセンス、またはすべてのライセンスを削除することができます。

1. [システム] をクリックします。
[システム詳細] ペインに、システムにインストールされたライセンスが表示されます。
2. [インストール済みライセンス] から、削除するライセンスを選択します。
3. [ライセンスの削除] をクリックします。
[ライセンスの削除] ウィンドウが表示されます。
4. 管理コントローラの資格情報を入力して通信設定を確認したら、[終了] をクリックします。

バインドされたライセンスのダウンロード

1. [利用資格] をクリックします。
[利用資格インベントリ] ウィンドウに、Dell オンラインアカウントに接続してインポートされたライセンスの利用資格の詳細が表示されます。
 2. ダウンロードするバインドされたライセンスを選択し、[バインドされたライセンスのダウンロード] をクリックします。
 **メモ:** [利用資格インベントリ] の表の [バインド済み] 列で、ライセンス可能なシステムに利用資格がバインドされているかどうか指定されます。
 3. [利用資格] ウィンドウで [OK] をクリックして、バインドされたライセンスのダウンロードを開始します。
[タスクステータス] ウィンドウが表示されます。
- ダウンロードしたライセンスは、[ライセンス] ビューに表示されます。ダウンロードしたライセンスを展開するには、[「ライセンスの展開」](#)、p. 20] を参照してください。

タスクとログの管理

タスクビューから、長時間実行されるタスクの進行状況を監視できます。タスクの状態表には、実行中のタスクと最近完了したタスクの概要が表示されます。[結果] タブには操作結果の概要が表示され、実行ログタブには現在選択されているタスクまたは操作の詳細ログが含まれています。

トピック：

- タスクのキャンセル
- ログエントリ
- 完了したタスクのクリア
- License Manager ログの表示
- サポートログアーカイブの生成

タスクのキャンセル

キャンセルしたタスクは、すでに実行中の操作が終了するまで終了されません。そのため、キャンセルしたタスクが終了するまでに数分かかることがあります。状況によっては、キャンセルが有効になる前にタスクが完了する場合があります。

1. [タスク] で、キャンセルするタスクを選択します。
2. [選択したタスクのキャンセル] をクリックします。
3. [タスクのキャンセル] で、[はい] をクリックします。

ログエントリ

タスク結果が選択されている場合、実行ログ タブには、選択したタスクログの詳細情報が表示されます。ログは、その特定の結果に関連するエントリにフィルタされます。ログエントリには、エントリの日時、ログコード、詳細ログメッセージが含まれています。

完了したタスクのクリア

タスクの実行中に License Manager アプリケーションが閉じられると、それらのタスクは終了します。進行中のタスクをクリアすることはできません。

完了したタスクをクリアするには、次の手順を実行します。

1. [タスク] から、[完了したタスクのクリア] をクリックします。
2. [完了したタスクのクリア] で、[はい] をクリックします。

License Manager ログの表示

保存された結果は、ログビューで確認できます。結果ログ表には、検出とインベントリ、ライセンスのインポート、ライセンスの展開または削除操作を含む License Manager アクティビティの概要が表示されます。ログエントリ ペインには、現在選択されているアクティビティの詳細な結果が表示されます。License Manager は、概要ベースの情報をログに記録します。記録される情報には、ステータス、日時、固有識別子、およびログされたイベントのリストが含まれます。

ログを表示するには、[ログ] をクリックします。

サポートログアーカイブの生成

テクニカルサポートに指示されたら、[サポートログアーカイブの生成] をクリックします。アーカイブを保存するフォルダを選択して [保存] をクリックします。このオプションは、各結果ログのテキストを含む zip アーカイブを生成します。指示に従って、アーカイブされたデータファイルをテクニカルサポートに提供します。

トラブルシューティング

トピック：

- ライセンスのインポート
- ライセンスのインベントリまたは検出と、ライセンスの展開
- ライセンスステータス警告

ライセンスのインポート

試用版ライセンスをインポートできない

メッセージ： Trial licenses are not supported by the license manager

対応処置： iDRAC GUI、CMC GUI、または RACADM CLI から試用版ライセンスを適用します。詳細については、iDRAC または CMC のマニュアルを参照してください。

ライセンスまたはアーカイブが破損している、あるいは読み取り不能

メッセージ：

- Unable to read archive file.
- The archive does not contain any license files.
- Unable to parse license.
- The digital signature is invalid.

対応処置： ライセンスアーカイブを dell.com/support/retail/lkm の Dell オンラインライセンスポータルから再度ダウンロードします。

ライセンスのインベントリまたは検出と、ライセンスの展開

検出またはインベントリエラーを解決するときは、iDRAC または CMC GUI にアクセスすることによって、リモートアドレスが iDRAC7 以降のバージョンに対応していることを確認します。iDRAC または CMC GUI にアクセスするには、ウェブブラウザを使用してシステム IP/ ホスト名に接続します。システムに iDRAC7 が含まれない場合は、メッセージを無視します。

無効な資格情報

メッセージ： Unable to establish communications - Access is denied.

対応処置： 正しい資格情報を入力します。iDRAC が共通の資格情報を共有していない場合は、異なる資格情報を使用して検出またはインベントリタスクを複数回実行する必要があります。

証明書エラー

メッセージ：

- Unable to establish communications - The SSL certificate contains a common name (CN) that does not match the hostname.

- Unable to establish communications - The SSL certificate is signed by an unknown certificate authority.
- Unable to establish communications - The SSL certificate could not be checked for revocation. The server used to check for revocation might be unreachable.
- Unable to establish communications - The SSL certificate is expired.

対応処置：証明書名がホスト名に一致しない場合は、管理コントローラがインベントリされているアドレスに一致する証明書をインストールします。別の方法として、検出またはインベントリ設定で証明書名の検証機能を無効にします。詳細に関しては、「[通信設定](#)」を参照してください。

認証局が認識されない場合は、管理コンソール上の Windows の信頼されたルート証明機関のリストにこの認証局を追加します。別の方法として、検出またはインベントリ設定で認証局の検証機能を無効にします。詳細に関しては、「[通信設定](#)」を参照してください。

証明書の失効状態をチェックできない場合は、証明書失効リストサーバが管理コンソールに対して使用可能であることを確認します。別の方法として、検出またはインベントリ設定で証明書失効リストのチェックを無効にします。詳細に関しては、「[通信設定](#)」を参照してください。

証明書の有効期限が切れている場合は、新しい証明書を生成してインストールします。Dell License Manager では、有効期限が切れた証明書を使用して iDRAC に接続することはできません。

接続できない

メッセージ：

- Unable to ping system - Timed Out
- Unable to establish communications - Connection to host timed out

対応処置：管理コントローラがネットワークに接続され、指定のアドレスが割り当てられていることを確認します。管理コンソールからシステムへのアクセスがファイアウォールの設定で許可されていることを確認します。

iDRAC または CMC GUI から、アドレスが、iDRAC7 以降のバージョンを含むシステムに対応していることを確認します。GUI にアクセスするには、ウェブブラウザからシステム IP またはホスト名に接続します。システムに iDRAC7 が含まれない場合は、メッセージを無視します。

ライセンスステータス警告

複数のシステムに展開された個々のバインド済みライセンス

メッセージ：同じ資格 ID を持つ 1 つ、または複数のライセンスが他のサービスタグにバインドされており、現在展開済みです。

対応処置：サービスタグによって指定された単一のシステムに、固有の資格 ID で識別される個別のバインド済みライセンスをインストールします。dell.com/support/retail/lkm の Dell オンラインライセンスポータルを使用して、ライセンスがシステムに適切に関連付けられていることを確認します。ポータルで指定されているライセンスインスタンス以外の、システム上に展開されているライセンスインスタンスを削除します。

システムインベントリ表内の資格 ID 列を並べ替え、またはフィルタすることによって、資格が展開されているシステムを特定することができます。不適切に展開されたライセンスは、管理コントローラ GUI を使用して削除できます。複数の永久ライセンスが同じシステムにインストールされている場合、それらの資格 ID は表に表示されません。そのようなシステムは個別に点検し、システム詳細 ペインにリストされたインストール済みライセンスを確認する必要があります。

アップグレード中におけるオリジナルライセンスの欠落

メッセージ：このライセンスはアップグレードとして指定されています。ただし、オリジナルライセンスが現在インストールされていません。

対応処置：オリジナルライセンスが別のシステムに再割り当てされていないことを確認します。システムで実行されたサービスが原因でオリジナルライセンスが存在していない場合、このメッセージは無視してください。

異なります。

システムから、システムの検出とインベントリ、ライセンスの展開、およびレポートの保存を行うことができます。

表 4. 異なります。

フィールド	説明
[検出およびインベントリの実行]	これを選択して、サポートされている管理コントローラの検出およびインベントリを行います
[関連付けられたライセンスの展開]	これを選択してライセンスを展開します
[レポートの保存]	これを選択してライセンスレポートを保存します
[削除]	これを選択して、License Manager インベントリからシステムを削除します

トピック：

- システムインベントリ表
- システム詳細ペイン
- 検出/インベントリウィザード
- インベントリ範囲の編集
- 通信設定

システムインベントリ表

システムインベントリ表にはライセンス可能なシステムの概要が表示されます。各列を並べ替えたり、サイズ変更したりすることができます。システムを選択すると、そのシステムの追加情報を表示したり、タスクを実行したりすることができます。また、複数システムの展開タスクまたは削除を選択することもできます。

表 5. システムインベントリ表

フィールド	説明
チェックボックス	システムを選択する方法
[システム名]	インストールされているオペレーティングシステムのホスト名です (利用可能な場合)
[管理コントローラ]	管理コントローラのホスト名です。リンクをクリックすると、Microsoft Internet Explorer を使用して管理コントローラの GUI が開きます。検出アドレスは括弧内に表示されます。
[システムモデル]	システムモデル名
[アップグレード可能]	ライセンスアップグレードの展開が可能な場合、メッセージが表示されます
[サービスタグ]	各システムを一意に識別する工場出荷時に割り当てられたシステムサービスタグです。各ライセンスは、そのライセンスが展開されたシステムを示す特定のサービスタグにバインドされます。
[インストールされた評価用ライセンス]	該当する場合、インストールされている評価用ライセンスの状態が表示されます
[現在のライセンス]	管理コントローラによって現在サポートされている機能のレベルです。サポートされるレベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Datacenter • Enterprise • Express

表 5. システムインベントリ表 (続き)

フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> Express for Blades Basic Management 各機能レベルでサポートされる管理コントローラ機能の詳細については、 dell.com/support/retail/lkm のオンラインライセンスポータルにアクセスしてください。 ①メモ: ハードウェアによっては、サポートされない管理機能もあります。詳細については、ハードウェアマニュアルを参照してください。
[購入済みライセンス]	システムにバインドされたすべての永久ライセンスの最高クラスのライセンスが表示されます。購入済みライセンスクラスの算出には、インストールされたライセンスと、インベントリ内にある展開待機中のライセンスの両方が含まれます。
[利用資格 ID]	固有のライセンス識別子です
[補足情報]	1つまたは複数の使用許諾契約違反の可能性を示します。
[最新のインベントリ]	システムで最新のインベントリが行われた日時です。システムでライセンス操作が行われると、システムは自動で再インベントリを行います。
[モジュラーシステム]	サーバまたはスレッドが取り付けられているモジュラーシステム (シャーシ) の名前です。
[ノード ID]	モジュラーシステム (シャーシ) に取り付けられているサーバまたはスレッドの固有識別子です。通常は、サーバのサービスタグまたはスレッドのサーバノード識別子になります。
[スロット]	モジュラーシステム (シャーシ) 内の、サーバまたはスレッドが取り付けられているスロットです

システム詳細ペイン

システム詳細ペインには、インストールされているライセンスと、システムのライセンス可能コンポーネントを含む、ライセンス可能システムの情報が表示されます。システム詳細には、コンポーネント詳細とライセンス詳細が含まれます。

表 6. システム詳細ペイン

フィールド	説明
[システム名]	インストールされているオペレーティングシステムのホスト名です (存在する場合)。
[管理コントローラ]	管理コントローラのホスト名です。
[モデル]	システムモデルです
[Service Tag]	システムのサービスタグです。
[検出アドレス]	管理コントローラが検出された IP アドレスまたはホスト名です。
[購入済みライセンス]	システムにバインドされたすべての永久ライセンスの最高クラスのライセンスが表示されます。購入済みライセンスクラスの算出には、インストールされたライセンスと、インベントリ内にある展開待機中のライセンスの両方が含まれます。
[現在のライセンス]	システム上の現在のライセンスです。
[インストール済みライセンス]	システムにインストールされているライセンスのリストです。
[ライセンスの削除]	[インストール済みライセンス] グリッドでライセンスを選択し、[ライセンスの削除] を選択して、システムにインストールされているライセンスを削除します。
[選択済み]	チェックボックスを選択してライセンスを選択します。
[ステータス]	ライセンス状態です。 <ul style="list-style-type: none"> 緑色 - ライセンスに問題はありません。 黄色 - ライセンスに問題がある可能性があります。

表 6. システム詳細ペイン（続き）

フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> 赤色 - ライセンスは機能していません。
[説明]	ライセンスの説明です
[利用資格 ID]	固有のライセンス識別子です
[有効期限]	ライセンスが失効する日付です（該当する場合）
[用語]	ライセンス条件です。詳細については、「 ライセンスについて 」を参照してください。
[購入日]	ライセンスが購入された日付です
[インポート日]	ライセンスがインポートされた日付です

検出 / インベントリウィザード

これらの値を入力して、IP 範囲とホスト情報を設定します。

表 7. 検出 / インベントリウィザード

フィールド	説明
[範囲または IP の追加]	選択して [インベントリ範囲の編集] ウィンドウを開き、新しい検出範囲を追加します
[編集]	既存の範囲を選択してクリックし、[インベントリ範囲の編集] ウィンドウを開きます
[選択の削除]	選択して、選択した範囲を削除します
[インベントリ]	チェックボックスを選択して IP アドレスを選択します
[範囲 / アドレス名]	範囲を示す固有の名前
[開始 / 個別アドレス]	IPv4 アドレスの開始範囲、または個々の IP アドレス
[終了アドレス]	IPv4 アドレスの終了範囲
[サブネットマスク] (オプション)	サブネットマスクを使用して、ネットワークアドレスとブロードキャストアドレスをインベントリ試行から除外します。除外しないと、各アドレスがホストとして扱われます
[説明] (オプション)	説明を入力します。各インベントリ範囲には、クラス B までのネットワーク (65,536 個のアドレス) を含むことができます

インベントリ範囲の編集

表 8. インベントリ範囲の編集

フィールド	説明
[IP 範囲とアドレス名]	範囲を示す固有の名前です。
[IP 範囲、個々のアドレス、またはアドレスのリストを入力します。]	
[IPv4 範囲]	選択して IPv4 アドレス範囲を入力します。
[開始アドレス]	IPv4 アドレスの開始範囲、または個々の IP アドレスです。
[終了アドレス]	IPv4 アドレスの終了範囲、または個々の IP アドレスです。
[サブネットマスク]	入力した IPv4 アドレスのサブネットマスクです。
[個々の IP アドレス (IPv4、IPv6、またはホスト名)]	選択して個々の IP アドレスを指定します。

表 8. インベントリ範囲の編集 (続き)

フィールド	説明
[IP アドレス記載のテキストファイル]	選択してから、各行に IP アドレスまたはホスト名が含まれるテキストファイルを使用してインベントリ範囲を作成します。
[負荷]	クリックして参照し、テキストファイルを選択します。
[説明 (オプション)]	説明を入力します。

通信設定

最適なパラメータ値は、ネットワークの特性によって異なります。通信設定では、資格情報、Ping (ICMP) 設定、および WS-Man 設定を入力することができます。

表 9. 通信設定

フィールド	説明
[資格情報]	検出 / インベントリを実行するには、資格情報を指定する必要があります。資格情報には、すべてのタスク実行での持続性ははありません。
[管理コントローラユーザー名]	管理コントローラユーザー名を入力します。Active Directory 認証を使用している場合は、domain\user name のフォーマットでユーザー名を入力します。 ① メモ: システムインベントリの実行には、管理コントローラのログイン権限が必要です。
[管理コントローラパスワード]	管理コントローラパスワードを入力します。
[Ping 設定 (ICMP)]	
[インベントリを実行する前には、Ping が正常に行われる必要があります。]	有効化されると、WS-Man インベントリ通信を試行する前に、アドレスから Ping 応答が受信されます。これにより、インベントリプロセスのパフォーマンス向上が可能になります。ただし、ネットワークが Ping 要求をブロックする場合は、このオプションを無効化します。このオプションは、デフォルトで有効に設定されています。
[再試行]	Ping を再試行する回数です。この回数を超えると、インベントリからシステムが除外されます。デフォルトは 3 回、許可される試行回数の合計は 4 回です。
[タイムアウト]	Ping 応答を受信する時間です。この時間内に受信しないと、Ping 試行は失敗します。デフォルトは 5 秒です。
[WS-Man 設定]	License Manager は、管理コントローラ WS-Man インタフェースを使用してインベントリ情報を取得します。
[証明書名の検証]	これが有効化されていると、インベントリ通信は、システムとの通信に使用されるアドレスと一致する証明書に基づいてそれ自体を証明するシステム限定で実施されます。iDRAC 証明書が検出アドレスと一致しない場合は、証明書名の検証を無効にして License Manager が iDRAC と通信できるようにします。ただし、証明書名が検証されない場合、License Manager はそのリモートシステムのアイデンティティを認証できません。
[認証局の検証]	これが有効化されていると、インベントリ通信は、信頼されたソースによって発行された証明書に基づいてそれ自体を証明するシステム限定で実施されます。iDRAC 証明書が信頼された認証局によって発行されたものでない場合は、検証を無効化して License Manager が iDRAC と通信できるようにします。ただし、認証局が検証されない場合、License Manager はそのリモートシステムのアイデンティティを認証できません。 検証のため、Microsoft Windows の信頼されたルート認証機関リストの一部として、信頼された認証局が含まれるようにします。詳細については、Microsoft Windows マニュアルを参照してください。
[証明書失効リストの検証]	有効になっている場合、失効した証明書を使用してそれ自体を証明するシステムとの通信は行われません。管理コンソールが証明書失効リストサーバと通信できない場合は、このオプションを無効化して iDRAC と通信します。ただし、証明書失効リストが検証されない場合、License Manager はそのリモートシステムのアイデンティティを認証できません。

表 9. 通信設定 (続き)

フィールド	説明
[再試行]	一時的な WS-Man 通信エラーが発生した場合に行われる通信再試行の回数です。この回数を超えると、インベントリ試行は失敗します。デフォルトの再試行回数は 1 回、つまり最大で 2 回試行できます。
[タイムアウト]	WS-Man ホストがデータの返信を開始する必要がある時間です。この時間内に開始されないと、通信試行は失敗します。デフォルト値は 30 秒です。
[ポート]	iDRAC 上で設定された HTTPS 通信ポートです。デフォルトポートは 443 です。このポートでは、管理ステーションと iDRAC の間の HTTPS 通信がファイアウォール設定で許可されるようにしてください。

ライセンス

ライセンスからは、一致するライセンスのインポートと展開、エクスポートしたライセンスのアーカイブ化、およびレポートの保存を行うことができます。

表 10. ライセンス

フィールド	説明
[ライセンスのインポート]	これをクリックして、ファイルシステムからライセンスをインポートします。
[アーカイブのエクスポート]	これを選択して、ライセンスをアーカイブします
[ライセンスの展開]	これを選択して、ライセンス可能システムに適合するライセンスを展開します。以下のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ● 選択されたライセンスの展開 ● ライセンスの自動展開
[レポートの保存]	これを選択して、ライセンスレポートを保存します
[削除]	これを選択して、License Manager ローカルデータベースからライセンスを削除します
[選択済み]	これをクリックしてライセンスを選択します。
[説明]	ライセンスの種類 (Enterprise ライセンス、バインド済み、未バインド、またはアップグレード) の詳細です
[用語]	ライセンス条件です。詳細については、「 ライセンスについて 」を参照してください。
[バインドされたサービスタグ]	ライセンスがバインドされているサービスタグです。このライセンスは、指定されたタグを持つシステムにしか展開できません。
[展開済み]	展開状態です。 <ul style="list-style-type: none"> ● はい - ライセンスが展開済みです ● いいえ - ライセンスは展開されていません ● 不明 - 対応するシステムがインベントリにありません
[適合システム]	このライセンスを割り当てることができるシステムです。 <ul style="list-style-type: none"> ● はい - 関連するシステムがインベントリにあることを示します ● いいえ - 関連するシステムがインベントリにないことを示します
[インポート元]	ライセンスが追加された方法です。 <ul style="list-style-type: none"> ● インポート済み - ライセンスは Dell License Manager にインポートされました ● 取得済み - ライセンスはインベントリの実行中に取得されました
[購入日]	ライセンスが購入された日付です
[インポート日]	ライセンスがインポートされた日付です
[ライセンス]	ライセンス識別番号とそのライセンスの詳細です
[利用資格 ID]	固有のライセンス識別子です
[アップグレード ID]	アップグレードライセンスの場合、アップグレードが適用されるライセンスの ID です
[有効期限]	ライセンスが失効する日付です (該当する場合)
[ライセンス機能]	選択されたライセンスによってサポートされる機能です

トピック :

- [Dell オンラインへの接続](#)

- ライセンスのバインド
- ライセンスの管理

Dell オンラインへの接続

表 11. Dell オンラインへの接続

フィールド	説明
[接続資格情報の入力]	
[Dell オンライン]	Dell オンラインアカウントのウェブページを開くリンクをクリックします。Dell オンラインアカウントの資格情報を入力した後、新しい OTP が生成されます。
[資格情報]	
[OTP (ワンタイムパスワード)]	Dell オンラインアカウントに接続することによって生成された OTP を入力します
[オプション]	
[接続資格情報の保存]	接続資格情報を保存することで、Dell オンラインアカウント再接続するには、License Manager を有効にするチェックボックスを選択します。 ① メモ: 資格情報の有効期限が切れたときは、Dell オンラインアカウントに接続して、新しい OTP をリクエストする必要があります。
[起動時に自動接続]	起動時に Dell オンラインアカウントに自動的に接続するには、License Manager を有効にするチェックボックスを選択します。
[プロキシ設定を有効にする]	ネットワークの接続にプロキシ設定を必要とする場合、プロキシ設定を有効にするチェックボックスを選択します
[プロキシ IP]	プロキシ IP アドレスを入力します
[ユーザー名]	プロキシユーザーのユーザー名を入力します
[パスワード]	プロキシユーザーのパスワードを入力します
[ポート]	プロキシサーバにアクセスするためのポート番号を入力します
[接続の結果]	Dell オンラインへの接続ステータスを表示します
[ロード完了]	Dell オンラインアカウントからフェッチされた未バインドのライセンスのサマリを表示します。
[資格 ID]	固有のライセンス識別子を表示します
[ライセンスの種類]	ライセンス可能システムに適合するライセンスのタイプを表示します
[説明]	購入したライセンスの説明を表示します
[バインド済み]	利用資格がライセンス可能システムにバインドされているかどうかを示します。

ライセンスのバインド

表 12. ライセンスのバインド

フィールド	説明
チェックボックス	これを選択して、すべてのライセンスのライセンス情報を表示します。
[ライセンスの説明]	ライセンスの説明
[ライセンス数]	未バインドライセンスの数
[選択済み]	ライセンスをバインドするシステムを選択します
[システム名]	ライセンスがバインドされるシステムの名前
[サービスタグ]	システムのサービスタグ

表 12. ライセンスのバインド (続き)


フィールド	説明
[システムのモデル]	システムモデル名
[バインド後にライセンスを展開]	ライセンスがシステムにバインドされた後、ライセンスを展開するために選択します
[ライセンスのバインド]	
[管理コントローラユーザー名]	管理コントローラユーザー名を入力します
[管理コントローラパスワード]	管理コントローラパスワードを入力します
[WS-Man 設定]	
[証明書名の検証]	これが有効化されていると、インベントリ通信は、システムとの通信に使用されるアドレスと一致する証明書に基づいてそれ自体を証明するシステム限定で実施されます。iDRAC 証明書が検出アドレスと一致しない場合は、証明書名の検証を無効にして License Manager が iDRAC と通信できるようにします。ただし、証明書名が検証されない場合、License Manager はそのリモートシステムのアイデンティティを認証できません。
[認証局の検証]	これが有効化されていると、通信は、信頼されたソースによって発行された証明書に基づいてそれ自体を証明するシステム限定で実施されます。iDRAC 証明書が信頼された認証局によって発行されたものでない場合は、License Manager の検証を無効化して管理コントローラと通信できるようにします。ただし、認証局が検証されない場合、License Manager はそのリモートシステムのアイデンティティを認証できません。 検証のため、Microsoft Windows の信頼されたルート認証機関リストの一部として、信頼された認証局が含まれるようにします。詳細については、Microsoft Windows マニュアルを参照してください。
[証明書失効リストの検証]	これが有効化されていると、失効した証明書を使用してそれ自体を証明するシステムとの通信は行われません。管理コンソールが証明書失効リストサーバーと通信できない場合は、このオプションを無効にして iDRAC と通信します。ただし、証明書失効リストが検証されない場合、License Manager はそのリモートシステムのアイデンティティを認証できません。
[再試行]	一時的な WS-Man 通信エラーが発生した場合に行われる通信再試行の回数です。この回数を超えると、展開の試行は失敗します。デフォルトの再試行回数は 1 回、つまり最大で 2 回試行できます。
[タイムアウト]	WS-Man ホストがデータの返信を開始する必要がある時間です。この時間内に開始されないと、通信試行は失敗します。デフォルトは 30 秒です。
[ポート]	iDRAC 上で設定された HTTPS 通信ポートです。デフォルトポートは 443 です。このポートでは、管理ステーションと iDRAC の間の HTTPS 通信がファイアウォール設定で許可されるようにしてください。

ライセンスの管理

表 13. ライセンスの管理

フィールド	説明
チェックボックス	ライセンスをすべて選択します。
[操作状態]	ライセンスが展開可能かどうかについての詳細情報です
[利用資格 ID]	ライセンスの ID
[ライセンスの説明]	ライセンスの説明
[システム]	ライセンスが展開されるシステムの名前です。使用可能な場合はホスト名が使用され、ホスト名が使用できない場合は iDRAC 名が使用されます。
[Service Tag]	各システムを一意に識別する工場出荷時に割り当てられたシステムサービスタグです。各ライセンスは、そのライセンスが展開されたシステムを示す特定のサービスタグにバインドされます。 ① メモ: 既にシステムに展開されているライセンスは、操作選択ページには表示されません。

表 13. ライセンスの管理（続き）

フィールド	説明
[アクティブライセンス]	システムにインストールされている最高クラスのライセンスのクラスと条件です
[資格情報]	
[管理コントローラユーザー名]	管理コントローラユーザー名を入力します。Active Directory 認証を使用している場合は、domain\user name のフォーマットでユーザー名を入力します。  メモ: システムインベントリの実行には、管理コントローラのログイン権限が必要です。
[管理コントローラパスワード]	管理コントローラパスワードを入力します
[WS-Man 設定]	Dell License Manager は、管理コントローラ WS-Man インタフェースを使用してインベントリ情報を取得します
[証明書名の検証]	これが有効化されていると、インベントリ通信は、システムとの通信に使用されるアドレスと一致する証明書に基づいてそれ自体を証明するシステム限定で実施されます。iDRAC 証明書が検出アドレスと一致しない場合は、証明書名の検証を無効化して Dell License Manager が iDRAC と通信できるようにします。ただし、証明書名が検証されない場合、Dell License Manager はそのリモートシステムのアイデンティティを認証できません。
[認証局の検証]	これが有効化されていると、インベントリ通信は、信頼されたソースによって発行された証明書に基づいてそれ自体を証明するシステム限定で実施されます。iDRAC 証明書が信頼された認証局によって発行されたものでない場合は、Dell License Manager の検証を無効化して管理コントローラと通信できるようにします。ただし、認証局が検証されない場合、Dell License Manager はそのリモートシステムのアイデンティティを認証できません。 検証のため、Microsoft Windows の信頼されたルート認証機関リストの一部として、信頼された認証局が含まれるようにします。詳細については、Microsoft Windows マニュアルを参照してください。
[証明書失効リストの検証]	これが有効化されていると、失効した証明書を使用してそれ自体を証明するシステムとの通信は行われません。管理コンソールが証明書失効リストサーバと通信できない場合は、このオプションを無効にして iDRAC と通信します。ただし、証明書失効リストが検証されない場合、Dell License Manager はそのリモートシステムのアイデンティティを認証できません。
[再試行]	一時的な WS-Man 通信エラーが発生した場合に行われる通信再試行の回数です。この回数を超えると、インベントリ試行は失敗します。デフォルトの試行回数は 1 回、つまり合計で 2 回試行できます。
[タイムアウト]	WS-Man ホストがデータの返信を開始する必要がある時間です。この時間内に開始されないと、通信試行は失敗します。デフォルトは 30 秒です。
[ポート]	iDRAC 上で設定された HTTPS 通信ポートです。デフォルトポートは 443 です。このポートでは、管理ステーションと iDRAC の間の HTTPS 通信がファイアウォール設定で許可されるようにしてください。変更を保存して検出/インベントリを続行するには、[次へ] をクリックします。
[タスク設定]	
[起動後のタスクページの表示]	これを選択して、[タスク] にタスクの進行状況を表示します。

利用資格

利用資格インベントリ表には、Dell オンラインに接続することによって取得した、利用資格 ID、ライセンスのタイプ、およびライセンスのバインドステータスのサマリが記載されています。

表 14. 利用資格

フィールド	説明
[レポートの保存]	選択して、利用資格レポートを保存します
[バインドされたライセンスのダウンロード]	Dell オンラインアカウントに接続して取得した、バインドされたライセンスをダウンロードする場合に選択します
[利用資格 ID]	固有のライセンス識別子です
[ライセンスの種類]	ライセンス可能システムに適合するライセンスのタイプ
[製品名]	ライセンス可能システムに関連付けられているライセンスの名前
[バインド済み]	利用資格がライセンス可能システムにバインドされているかどうかを示します。

トピック：

- [サーバパスワードの変更](#)

サーバパスワードの変更

表 15. サーバパスワードの変更

フィールド	説明
[デバイスの追加]	
[サービスタグ]	各システムを一意に識別するサービスタグ
[固有のパスワード]	システムの固有ルートユーザーパスワード
[追加]	クリックして、システムのサービスタグと固有のパスワードを追加します。
[システム詳細]	
[CSV テンプレートの生成]	クリックして、サービスタグおよび固有のパスワード情報を入力するための CSV テンプレートを生成します。
[インポート]	クリックして、システムのサービスタグおよび固有のパスワード情報が入力された CSV テンプレートをインポートします。
[削除]	クリックして、システムを削除します。
[OMM を使用してインポート]	クリックして、.ompi または .xml ファイルからサービスタグと固有のパスワード情報をインポートします。
[選択済み]	クリックして、すべてのシステムを選択します。
[サービスタグ]	システムを一意に識別するサービスタグのリストを表示します
[固有のパスワード]	すべてのシステムの固有のパスワードが表示されますが、ユーザーには非表示です
[IP アドレス / 範囲の指定]	
[IPv4 範囲]	
[開始アドレス]	IPv4 アドレスの開始範囲

表 15. サーバパスワードの変更（続き）

フィールド	説明
[終了アドレス]	IPv4 アドレスの終了範囲
[サブネットマスク]	入力した IPv4 アドレスのサブネットマスク
[個々のアドレス (IPv4)]	選択して個々の IP アドレスを指定します。
[IP アドレス記載のテキストファイル]	選択してから、各行に IP アドレスまたはホスト名が含まれるテキストファイルを使用して IP アドレスの範囲を入力します。
[負荷]	クリックして参照し、テキストファイルを選択します。
[新しいパスワードの入力]	
[新しいパスワードの入力]	選択したシステムの新しいパスワードを入力します。
[パスワードの確認]	新しいパスワードを再度入力して、選択したシステムのパスワードの変更を確定します。

タスク

タスクからは、検出とインベントリ、およびライセンス展開タスク情報を表示することができます。

表 16. タスク

フィールド	説明
[完了したタスクのクリア]	これを選択して、完了したタスク情報をページします
[選択したタスクのキャンセル]	これを選択して、リストされたタスクをキャンセルします
[ステータス]	タスクの状態の種類がリストされます <ul style="list-style-type: none"> ● 正常 - タスクが正常に完了しました ● 失敗 - タスクは完了されていません
[ID]	タスクに割り当てられた固有の ID です
[タスク]	タスクの説明です
[概要]	タスクの状態の説明です
[進行]	タスクの進行状況のインジケータです
[開始時刻]	タスクの開始時刻です
[終了時刻]	タスクの終了時刻です
[タスク結果]	状態、操作、および結果情報を示します。これには、次のタブがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ● 結果 ● 実行ログ
[ステータス]	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑色 - タスクが正常に完了しました ● 黄色 - タスクが警告を伴って完了しました ● 赤色 - タスクがエラーを伴って完了しました
[操作]	操作の説明です。
[結果]	操作結果の概要です ① メモ: 検出 / インベントリの IP 範囲の結果を生成するとき、通信が確立されていないアドレス、またはライセンス不可能なシステムが検出されたアドレスについての結果エントリは作成されません。このようなシステムの結果情報については、実行ログ タブを参照してください。
[実行ログ]	[実行ログ] タブは、選択されたタスクログからの詳細情報を提供します

ログからは、License Manager アクティビティの表示、ログ結果のクリア、レポートの保存を行うことができます。

表 17. ログ

フィールド	説明
[ログを消去]	これを選択して、ログに記録された情報をページします
[サポートログアーカイブの生成]	これを選択して、ログに記録された情報をアーカイブします
[レポートの保存]	これを選択して、ログレポートを保存します
[結果]	リストされたタスクの状態の種類です。 <ul style="list-style-type: none">● 正常 - タスクが正常に完了しました● 失敗 - タスクは完了されていません
[ID]	タスクに割り当てられた固有の ID です
[概要]	ログに記録されたイベントの概要説明です
[日付]	タスクが完了した日付および時刻です
[ログエントリ]	ログに記録された情報の詳細です